

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0272701004		
法人名	株式会社リブライズ		
事業所名	グループホームかっこうの森		
所在地	〒039-1212青森県三戸郡階上町蒼前西2丁目9-992		
自己評価作成日	2020年09月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和2年10月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

トークノート(社内SNS)を通して、チームだけでなく社内全体で情報共有できている。そのことによって、課題の早期発見と多職種連携が促進された。いちスタッフの働きをトークノートを通じて上司やチーム全体が把握でき、助言と提案を繰り返すことで、スタッフの成長スピードも格段に上がったと感じている。将来的にお客様の個人記録をすべてトークノートにして、ご家族様が施設に来れない時にでも自由に自分の家で記録を読めるようにするのが現時点での目標である。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】**

学生用の下宿を改装し入居者が生活しやすいように工夫されている。「利用者・職員・組織がオールハッピーに」という法人理念の基、事業所では、「当たり前前の方が当たり前前ができる」という理念を掲げている。丁寧な言葉がけを心掛け、一人ひとり尊厳を守るよう支援している。トークノート(社内SNS)を活用し、細やかな情報共有が出来ている。また、トークノートは、家族の報告やチーム・上司への報告はもちろん、ケアに関してタイムリーで他職員の助言が受けられ、利用者にとって必要なケア方法などの提供が出来ている。入浴は、週3回を基本に時間制限せずいつでも希望されたときに入浴ができるように配慮されている。看取り介護に取り組んでおり、状態が変わった際には、本人・家族・協力医療機関とも連携出来ており、密な話し合いが行われ旅立ちのお手伝いをしている。コロナ禍の中、県外旅行などの外出は出来ていないが、食材や衣類の買い物、ドライブ、散歩に出掛けており、これまでの生活が継続できるよう取り組んでいる。本人の思いや願いを理解し、職員全体で一人ひとりに寄り添ったケアを実践している事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年理念を踏まえたうえで、気づき共有シートを作成している。また、実際に行動にきちんと移せているのかを振り返る場を設けている。	ホームページとトークノート(社内SNS)を開くといつでも見れるようになっている。毎日のミーティングや月1回の面談で確認している。また、自己評価している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナウイルスの影響によって、地域のイベントには一つも参加できていない。状況を見てイベントなどに参加したいと考えている。	コロナ禍のため、町内会の行事にも参加していないが、これからの様子を見て、町内の月1回草取り・ごみ拾いや地域でのイベント等は、参加を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校に出向き、認知症サポーター養成講座を開催した。新型コロナウイルスの状況を見ながら、今後も地域の方々へ認知症に対する理解を深めていただく場を作る予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルスの影響で、今までとは異なるスタイルで実施することとなった。文書にて地域の方々やご家族に状況報告をしている。	コロナ禍のため、2か月に1回郵送にて報告している。テレビ電話で意見をされる方もおり、頂いた意見から事例を取り上げてわかりやすくお知らせしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	階上町役場の担当者を中心に、連絡を取り合うことができています。お客様の特殊な状況における相談などもできており、その都度助言を頂いている。	役場の担当者とは、電話や訪問し密に連携している。ケース相談等身寄りのない方や身元引受人が遠い親戚の方になっている方や家族の対応が難しい場合など相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を定期的に行っている。また、身体拘束に発展しやすい不適切ケアについても学ぶ機会を設けている。	年2回身体拘束についての研修会を行い、トークノート(社内SNS)にていつでも閲覧できるようにしている。また、動画をみながらの研修もあり、不適切なケアの事例検討も2~3ヶ月に1回、行っている。防犯のため、夜間には施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に定期的に研修を行なっている。また、不適切ケアを行わないことで虐待行為そのものもなくなると考え、不適切ケアについての学びの機会を多く設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用しているお客様はこれまでにいなかったが、管理者が中心に研修に参加し情報収集と知識の習得をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や契約の前後に、ご家族様に確認し不明な点などがないよう説明をしている。また、一度で理解できない方に対しては、必要時再度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付表や意見箱の設置によって、また面会時の会話を通して意見を伺うことができている。その内容をチームで共有し、対応策や今後の施設の在り方を検討している。	玄関先に意見箱を設置している。電話や面会時の対応について苦情があった場合、その都度トークノート(社内SNS)へ投稿し、改善策や対応について話し合いが行われ改善している。	
11	(7)	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	トークノート(社内SNS)を通じて日頃から、スタッフ一人一人の意見や考えを聞き取ることができている。また、定期的に管理者とマンツーマンで面談している。	月1回面接があり、トークノート(社内SNS)を利用し常に意見を伝える環境ができている。また、相談や不安の都度トークノート(社内SNS)へ投稿すると代表者や管理者がアドバイスを投稿しスタッフの不安解消に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	トークノート(社内SNS)にてスタッフの気持ちや働き方を客観的に見るができている。また、その事実に対してチーム全体が褒め合う社風もできている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの影響により社外研修の参加率は低くなってしまったが、ウェビナーによる研修参加が増えている。研修費支給や車両貸し出し、交通費の支給などの研修応援制度もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の法人の方々と交流する機会は年々多くなっている。社外の人とのかかわりが増えることで、仕事に対する考え方が成長している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居日が決定した時点で、入居前にご家族様とご本人、ケアマネージャーや連携室など関係機関からそれぞれ情報を収集している。最も重要視しているのはご本人様の気持ちだということも、直接ご本人様へ伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自身のご家族を施設で暮らせることに対し、たくさんの不安を感じている方が多いので、時間を設けてじっくり話を聴いている。また、必要時電話やメールを活用し関りを多く持つよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に詳しくお話を伺い、お客様やご家族のニーズが果たしてグループホームで暮らすことに結びついているのか再検討してから同意を頂いている。		
18		職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様がグループホームを自分の住処だと認識できるよう日々関係づくりを心掛けている。スタッフも“世話をしてあげている”と思うことのないように新人から中堅まで教育している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には日々の変化や出来事をこまめにお伝えし、一緒に今後の生活を支えていただくよう関係づくりをしている。また、ご家族様からの助言で支援することも多い。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスによる一部制限はあるものの、地域の会いたい方や行きたい場所にはこれまで通りの対応をとっている。その方の培ってきた人生を施設での生活でも継続して送ることができるよう支援している。	家族の協力もあり、病院や墓参りを継続している。入居者全体の4割の方は、グループホームで墓参りの送迎をしている。コロナ禍で面会制限したところ不安になる方があり、面会制限を見直し家族・友人との交流を再開し馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士合う合わないがあるため、スタッフが日ごろの関係を把握し対応している。団体生活によるストレスを感じることなく日常生活を送っていただきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後、退居後、亡くなった後も関わりがある。特にグリーフケアには力を入れているため、ご本人様が亡くなった後もご家族様が施設に来られることも多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様の情報を得たスタッフはすぐにトークノートを活用し、瞬時にチーム全体で情報共有している。その情報をもとに各担当を中心に検討し、毎日のミーティングで検討と実践を繰り返している。	センター方式・課題総括整理表を用いて、日常生活中での表情・行動や会話から思いをくみ取り、トークノート(社内SNS)を活用し情報を共有している。各担当者が中心となり、本人本位の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各担当が中心となり、その方の生き方と考え方を入居前に情報収集している。生活歴はご本人様の感覚とご家族の感覚が異なる場合が多いので、どちらも参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々アセスメントし、毎日のミーティングにてお客様一人一人の現状把握に努めている。情報共有に漏れや認識のずれがないように写真や動画を撮っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングとトークノートによる情報共有、ご家族とのメールや面会時のやり取りの中で、それぞれの立場から焦点を当てて計画書を作成している。	家族と面会時やメールなどで日ごろの様子を伝え、意向やケアのあり方を確認している。家族との話し合いにより、リハビリが検討される方は、法人内リハビリスタッフへ相談でき、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	トークノートやミーティング、日々のサービスにて検討と実践を繰り返している。変化する状況をあと伸ばしにせず、早期対応することを日頃からスタッフに伝えている。		
28		○本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常提供されるケアが固定化されないように、社内で情報共有し様々な職種や立場から助言をもらい検討して、ご本人様の“今のニーズ”に対応することを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の図書館やプール、集会所を利用している。民生委員の方々や区長さんからの協力をもとにお客様が地域の一員として生活できるよう心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医(往診医を含む)と連携を取り、ご本人様が望まれる医療を受けることができるよう支援している。状況に合わせ、外来から往診に切り替えるなどの提案もさせていただいている。	入居の際、主治医について本人、家族の意向を確認している。入居先からかかりつけ医の病院まで遠い場合や待ち時間が待てない方は、往診医がきてくれる病院が4か所あるため、適切な医療が受けられるよう相談している。また、医師間の連携が行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の看護師はもちろんのこと、訪問看護師と連携を取り支援できている。これまでは電話による報告が多かったが、現在は写真や動画を利用して客観的な情報を提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は医療連携室と密に連絡を取り、情報収集をしている。また、退院に向けてどのような動きをしていくことがご本人様のためになるのか相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し同意を得ている。また、状況によって再度説明をしている。階上町役場の担当者の方に対しても必要時相談しながら情報共有もできている。	入居時に重度化や終末期について、説明し同意を得ている。体調の変化に伴い、その都度家族の意向を確認しており、最期は、家族と一緒に看取りを行っている。重度化や看取りの研修は、法人やグループホーム内でも行われ、実践に活かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員に対しては入社直後に行なっている。また、社内研修や外部研修にてスタッフ全員が定期的に訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を定期的に行っている。階上町からの助言を受けながら新たなマニュアルも作成した。	役場から、地震や風害に対して、助言をもらいマニュアルを作成する。訓練の際は、近くにある法人の広い場所までの移動訓練や消防署立ち合いの消火器訓練を行っている。訓練時は、近所の方の協力がある。今年度は、コロナ関連もあり、これから実施する予定である。備蓄については、グループホーム内法人内の2ヶ所にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護業界の当たり前が一般的な当たり前と違うということを常日頃スタッフに伝えている。接客業であり、人生の先輩であることを理解した上で接している。	年1回プライバシーや個人情報に係る外部研修を行っている。日常のケア時において、気になるような行動があった場合は、その都度注意しトークノート(社内SNS)にて周知し誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当職員が中心となって一人一人のお客様の要望を把握している。その情報はチームにて必ず共有している。また、お客様の会話の理解度に合わせて聞き方や話し方も工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間による生活の制限は決してしないことをチームで理解している。ご本人さんがこれまでの人生で培ってきた暮らしを、施設入居後も継続できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着脱しやすい、洗濯しやすい衣類を選ぶのではなく、ご本人様の嗜好に合わせた衣類を着用してほしいと入居前から説明している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片付けまで、お客様も参加している。それぞれできることをやっていたが、メニューを決める際にも助言や要望を聞いている。	2週間分のメニューを作るときに、スーパーの広告を見ながら入居者と一緒に考えている。また、食材は道の駅等へ一緒に買い物へ行っており、好き嫌いのある方には代替食もある。食事の準備時間になると、食材の準備から味付け・盛り付けや後片付けの一連の行為を入居者と一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人様の状況に合わせて支援している。必要時、インアウトの計測を行い、看護師や主治医へ報告をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に協力歯科医が訪問し、その際一人一人に合わせた口腔ケアの助言もいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時のトイレ誘導だけでなく、お客様に合わせた排泄時間を見いだして援助している。	入居者一人一人の排泄チェックシートをつけ、排泄行動を把握し便意や尿意のない方でも、トイレ誘導し失禁しないようにしている。夜間の排泄を心配し夜間のみ尿取りパッドやポータブルトイレを準備している方もいる。今後は、排泄をお知らせする機械を導入する予定である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤に頼るだけでなく、生活習慣の改善や食事による改善も図っている。オリゴ糖と食物繊維、オリーブオイルなどの摂取を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	時間制限はせずにご自身の気分と好みで入浴できるように支援している。就寝前に入浴している方も多い。	入居者の希望にそって、毎日入る方や寝る前に入浴する方がいる。入りたくない方には、銭湯等外部の入浴施設へ行くなど、入浴を楽しんで頂けるように、個々に応じて支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その知己の状況に合わせて支援している。夜間ぐっすり眠ることができない方々も多いので、オイルマッサージしたり、足浴をしたり、アロマオイルを利用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	数年前からの課題であったため、現在力を入れている。毎月薬剤師と面談し、定期的に社内の勉強会も開催している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりが、これまでの生活を継続できるように、担当スタッフを中心に日々情報収集をして実践している。団体生活中心にならないよう、個人の生活を意識している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は新型コロナウイルスの影響によって旅行を開催できていない。ご家族の協力を得ながら外出支援を継続していく。	家族も一緒に1泊2日旅行等行っていたが、コロナ禍に伴い、今年度は、行っていない。しかし、家族の協力を得て、買い物外出は行っている。馴染みの呉服店や散歩中に近所の方と話しをしたり、コンビニで買い物などは継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様にできるだけお財布を持っていただき支払いをしている。お金を自分で持つことで、プライドや自尊心が維持されるものと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙を書く方もいらっしゃいますが、テレビ電話を以前からおすすめしていて、気軽にご家族様やお知り合いの方と顔を見てお話しできる環境を作っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や地域の風習を取り入れた環境にするよう心掛けている。季節の花はお客様と一緒に購入している。	道の駅へ買い物へ出かけたときなど、季節の花や置物を購入して、室内へ装飾している。えんぶりや三社大祭の時期は、関連したものを装飾している。明かり窓があり、やさしい光の取入れがなされている。各居室に室温計や加湿器が準備されエアコン等利用し空調管理がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でひとりになれる環境はあまりないのが現状である。気の合ったお客様同士がどちらかの居室で過ごすことはある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みに対して制限は何もない。使い慣れたものを持ち込んでいる。仏壇や自身が作成した彫刻品や骨とう品を持ってきている方もいる。	居室内の家具等の配置は、本人・家族が決めている。過ごしている間に不都合があれば、本人と相談し家族へ了解を得てから居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	あまり工夫されていないのが現状である。		